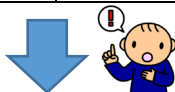


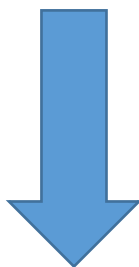
☆自立活動の課題を整理（高等部の実態データを参考に）

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> 健康状態の把握 清潔衛生 偏食？ 安全 危機回避 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちの安定 安心して活動に取り組む 状況の把握 状況の変化への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 行動調整 感情の読み取り 人への要求 気持ちの共有 	<ul style="list-style-type: none"> 固有覚・視覚 聴覚・粗大運動 微細運動 恒常性の知覚 図-地の弁別 	<ul style="list-style-type: none"> 模倣 行動調整 	<ul style="list-style-type: none"> 要求、援助 指さし理解 元になる力 言語の表出 言語の理解



☆情報の整理、中心課題となる事柄（生活上・学習上の困難さ）※過去のことも含めて

落ち着かない（授業、教室にいることが困難、教室から飛び出す、座って活動できる時間が短い）
 髪、服を引っ張る、（教員の）頬をつねる、叩く、ひっかく【他傷に類する行動】
 水遊びへの執着（水道、水たまり、溝、トイレ）【感覚刺激】
 教員からの抱きしめ、かたぐるまの要求、高いところや不安定なところを好む【感覚刺激】



根気強く丁寧に実践を

積み上げたことによって！



☆感覚刺激を取り入れ、丁寧に関係作りをした実践！！

本人が求める、感覚刺激（かたぐるま、抱っこ等の固有感覚、前庭感覚や水遊びの触覚刺激）を有効に活用して、感覚を十分に満たし、きちんと本人の思いに寄り添いながらコミュニケーションを図って指導を続けた実践。

ここが指導のポイント！！

【】内は自立活動の区分、項目を記載しています。

※指導の大原則【本人のペースを大事にしながら活動への参加を促す。見守る。】

①好きな感覚を入れる（かたぐるま、抱っこ、足裏をたたく、体に圧迫刺激を入れる、高いところに登る）

【心理的な安定2-（1）、環境の把握4-（1）】

②自分の体を知ったり、自分で体を休めたりすることができる。（リラックス）

【健康の保持1-（3）、心理的な安定2-（1）、環境の把握4-（2）】

③活動ボードと写真カードを使って、次の活動に見通しをもつことができる。

【心理的な安定2-（2）、人間関係の形成3-（4）、コミュニケーション6-（1）】

